

戸塚 和 議員

元気な農業 豊かな地域に

Q 問 地域の特色を生かした特産品作りと活性化支援は。

A 答 転作作物としてタマネギ、黒大豆、白ネギなど特定作物の栽培を推進し、安定した農業経営ができるように支援している。

Q 問 地域の担い手の育成・確保と規模拡大に全力を。

A 答 効率よく農業経営を行うために、圃場をできる限り1カ所に集積することが求められる。面的な集積を行うためには、調整組織を立ち上げる必要があるので、要望があった段階で対応をしていきたい。

Q 問 悪臭公害の出ない畜産完熟堆肥の推進と有機栽培への投入PRを。

A 答 高品質化にあたって、良質な有機堆肥製造施設への利用助成などの支援に努めてきた。今後は、さらに、堆肥の高品質化に向けて、県や静岡理工科大学などの支援を仰ぎながら指導していきたいと考えている。また、畜産堆肥を散布する農作業機械の導入に対する助成制度や低利な農業融資資金制度については、支援に努めていきたい。



浅羽地域の田園地帯

廣岡 英一 議員

大きな変わり目にある「まちづくり」の基本軸とは

Q 問 景気の下降で、財源不足と事業の執行が憂慮される。計画されている事務事業をどんな基準で見直すのか。

A 答 収支を保った上で、国の景気対策や補助金の関係を総合的に考慮しながら、市民生活を守るためと、財源の効率性を基本に見直していきたい。

Q 問 協働まちづくりの指針によれば、協働の最終的な成果は「市民主体のまちづくりの実現」とある。市長が描く「官民協働まちづくりの姿」とは何か。

A 答 官民協働まちづくりとは行政と市民活動団体が対等なパートナーとしてお互いに協力して目的達成に向けて取り組むことであると考えている。

Q 問 21世紀のまちづくりは、ハードからソフトへ、行政主導から住民主導へ軸足を変えていくべき、と考えるがどうか。

A 答 ハードは将来的に必要な最小限のものとし、ソフトとうまく組み合わせ、その中に市民の声を入れながら市政運営をしていきたいと考えている。



協働まちづくりセンター「ふらっと」